

際に申し上げた 10 円配当のまま留めさせていただいた。

Q 製鉄所の組織再編によって固定費を削減する方向に向かうことは可能か？

各製鉄所の最適なコスト配分、人員配分、製造の配置等の工夫を行うにあたって、例えば各製鉄所の黒字化の時期など、具体的な時間軸や目標の設定が必要だと思うが、こうした時間軸や目標について教えていただきたい。

A 固定費規模の適正化は重要な課題だと考えており、様々な施策を検討・実施していく。

組織再編は来年 4 月 1 日に行う。複数の箇所分散している戦力をより大きな単位で一体化させることによる戦力強化、業務運営の効率化、要員の効率化、採用・配置・育成面における人材基盤の強化、技術・技能・ノウハウ等の共有化による業務レベルの向上、意思決定の迅速化等、ソフト面の対策を速やかに実施していく。

ハード面の対策については、最適生産体制について別途検討しており、成案化出来たものから公表し実行していく。

各製鉄所を黒字化することは当然で、それがなければ赤字に陥っている当社単独損益の黒字化もない。あらゆる対策のスピーディな実行が必要な状況だという危機感を持って臨んでいく。

Q 来年度以降も外部環境の大きな改善は望めない中で、損益水準をどう考えたらよいか？

A 災害影響等の一過性要因を除いた今年度の実力損益は 1,500 億円程度。

外部環境は、来年度も大きく改善するとは思っていない。損益の回復に向けては、本日ご説明した諸施策の実行、固定費規模の適正化に加えて、未だ道半ばである主原料以外のコストアップの販売価格への反映をいかに早く実現出来るかがポイントであり、これに取り組んでいきたい。

Q 子会社の山陽特殊製鋼では、外部環境の悪化に加えて、第三者割当増資による株式の希薄化と、OVAKO 社の「のれん」償却により、一株当たり利益が低下している。御社の親子上場会社へのスタンスを教えてください。

A 山陽特殊製鋼は、子会社化した OVAKO の収益が、欧州の在庫調整の長期化・欧州経済の低迷等により足元では当初の想定を下回っていることも、利益にマイナスの影響を与えている。こうした中、株価の低迷に対応して、山陽特殊製鋼は独自の判断で自己株買いを行っている。当社は山陽特殊製鋼の最大株主として、山陽特殊製鋼の少数株主との共同の利益を念頭に置き、企業価値の最大化に向けて、様々な点で山陽特殊製鋼との連携を行っている。

Q 自然災害のような一過性の影響を、今後の業績見通しにどれだけ織り込むべきか？

A これまでも、降雨や台風の影響については、経験則に基づき予測して一定程度を生産計画

に織り込んでいる。しかし今回の君津の落雷は 350～400 年に 1 度の確率で発生した強い電撃であり、台風 15 号では風速 60m という想定をはるかに超える強風が発生した。こうした従来の経験則をはるかに超える災害については、生産計画や業績見通しには織り込んでいない。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。